CLAの技術・事例特集

❖小笠原諸島への荷物の架け橋

小笠原関連で仕事をしていると、物を本土から運ぶ場合がでてきます。そんなときは、運搬船：「共勝丸」が活躍します。

本社は宮城県石巻市ですが、中央区勝どきにある東京営業所（03-3533-2671）が窓口です。

船着き場は東京の月島埠頭で、父島迄の所要時間は46時間、小笠原諸島《父島・母島》へ、主に建築資材や車両などの重量物、食料品や雑貨などの生活物資、燃料の運搬をしています。まさに小笠原の大動脈となっています。

就航は月に2～3回不定期です。日程は要確認下さい。相談次第で一般の人が乗船できることもあるようです。

船は　総トン数：317t　全長：59m　航海速力：20.4km/h程度
海上運賃：13,500円/m³もしくは13,500/tとなってます。

写真は丸勝丸HPより
http://www1.odn.ne.jp/kyoshomaru/

大きな遊具やシェルターも運べます。

CLA　関東支部ニュース

「新国立競技場及び明治神宮外苑の新整備計画に対する景観・ランドスケープからの提案」

首相官邸での「新国立競技場の整備計画の再検討推進」に関する意見募集についてCLAは「新国立競技場及び明治神宮外苑の新整備計画に対する景観・ランドスケープからの提案」を登録しました。

①神宮外苑一帯は、首都東京の歴史文化地区、スポーツ活動のメッカ、緑地・景観の拠点などの特性をもつ。50年100年先を見据えた整備を、神宮の杜や新宿御苑などの緑のネットワークを考えながら推進していく。

②神宮外苑は、神宮球場・秩父宮ラグビー場等のスポーツ施設の総合的な土地利用計画を作成し、合理的・一体的な整備を行っていく。

③神宮外苑をオリンピックレガシーの地区としていくために、緑の環境の中で憩い、スポーツレクリエーション活動を楽しめる機能とともに、首都東京のクールアイランドや広域防災拠点としての機能を併せ持つ空間とする。

④新国立競技場は、半地下構造とし、建築物の高さを40m程度に制限する。フィールドは天然芝としアスリート第一とする。周囲に樹木を配植し、建築物と緑が調和した環境を創出する。

⑤都立明治公園の位置に、サブトラックを確保し、国際競技大会に対応できる機能を備える。

⑥神宮球場と秩父宮ラクビー場については、スタンドの一部共有等を含む相互連携型施設としての再整備を検討する。

⑦神宮第二球場を南側にずらし、都会の森と多目的広場機能を持つオリンピック広場を整備する。

⑧千駄ヶ谷駅と東京体育館～新国立競技場を結ぶアクセスルートを整備する。

⑨外苑西通りの窪地一帯を、渋谷川の再生と斜面緑地として整備する。新宿御苑～千駄ヶ谷駅～外苑地区を連続して利用できる歩行空間を整備する。

⑩絵画館前の市民野球場を、誰もが自由にスポーツレクリエーション活動を楽しめる広場として整備する。

いきものコラム　その17　夏の風物詩「セミ」

地中での何年間もの長い幼虫生活を終え、夏の夕暮れに地中から出てきたセミの幼虫は、木の幹などで成虫に羽化します（写真はニイニイゼミの羽化）。しかし夏の風物詩として元気に鳴き声を響かせる期間は数週間と短くはかないものです。

関東地方では梅雨明け頃、夏休みが近くなるとまずはじめに鳴きだすのはまだら模様の羽のニイニイゼミで、その後盛夏に向けて羽も含め全身茶褐色のアブラゼミや、緑色の斑の体に透明な羽のミンミンゼミが賑やかに鳴きだし、秋が近くなるとやや小さなツクツクホウシの声が聴かれてセミの季節は終わりを告げます。

西日本ではこの他に特に盛夏の午前中に黒くて大きな体のクマゼミの声が聴かれます。筆者のような関東人はこのセミの「シャワシャワシャワ」という声を聴くと西日本に来たな、と感じていましたが、近年関東圏でも見られるようになり、そういった感慨も得られなくなりつつあります。この要因としては植木の根などについての進入、温暖化での分布域の拡大などが挙げられています。

株式会社プレック研究所　村田和彦

気になるお店

今回はテーマにちなみ伊豆諸島・小笠原諸島のアンテナショップを紹介します。

TOKYO ISLANDS　CAFE

島の総合情報発信拠点

伊豆・小笠原諸島への玄関口である竹芝客船ターミナルの1階待合所に隣接したカフェ。伊豆諸島・小笠原諸島の特産品販売コーナーと島の食材を活かしたメニューが充実したレストランがあります。小笠原諸島のおすすめ商品は、パッションフルーツ・グアバのジュース、島レモンのカード（バタークリーム）。ジュースはレストランでも楽しめます。伊豆諸島のおすすめ商品は、神津島の赤イカの塩辛、八丈島の明日葉、新島の焼くさやなど、焼酎のお供にぴったりの品々。人気の明日葉の生葉は9月から入荷予定とのこと。

竹芝客船ターミナルの2階の送迎デッキから、大型貨客船の発着の様子を眺めるのも楽しいですよ。東京の島々のおいしい食べ物を味わいに、出かけてみてはいかがでしょうか。

住所●東京都港区海岸1-12-2
竹芝客船ターミナル内
電話●03-5472-6559
営業時間●7：30～22：30
（7/1～9/30は7：30～23：00）
休み●年中無休
交通●JR浜松町駅・都営地下鉄大門駅
徒歩7分　ゆりかもめ竹芝駅　徒歩1分
ホームページ●http://islands-love.com/

［左上］小笠原諸島のおすすめ商品
［左下］伊豆諸島のおすすめ商品
［右］店内の様子

編集後記

今回の「小笠原諸島とランドスケープ」の特集はいかがでしたでしょうか。6月末に関東支部主催で行われた特別講演は、小笠原の歴史的な背景に植生が影響されたことや外来種の状況も知ることができて、とても興味深い講演でした。今号はその内容をまとめたものとなっています。表紙などに掲載する写真を選ぶのに広報委員一同が悩みました。どの写真も絵になるのです。小笠原は美しくダイナミックな景観が展開しています。ぜひ、訪れて実感してみてください。

ここで紹介した植物は、小笠原諸島固有種のごく一部です。もっと知りたい方は「小笠原諸島固有植物ガイド」（豊田武司著、ウッズプレス発行）をご覧下さい。最後に、講演者の豊田武司さんと写真を提供いただいた森弦一さんに厚くお礼申し上げます。（石井）

みどりの手帖　Vol. 17　2015年9月
発行者　（一社）ランドスケープコンサルタンツ協会関東支部長　新井 豊
〒103-0004　東京都中央区東日本橋3－3－7　近江会館ビル8階
TEL 03-3662-8266　FAX 03-3662-8268
企画・編集　光益 尚登、加藤 直人、石井 ちはる、石垣 良弘、泉地 善雄、菊谷 隆、杉原 豪、高橋 彩、和田 淳

※転載・転用を禁じます。

表紙写真／ガジュマル（父島にて）

（一社）ランドスケープコンサルタンツ協会関東支部
Consultants of Landscape Architecture in Japan

CLA
Consultants of Landscape Architecture in Japan

CLA 関東支部情報誌
Vol.17　2015.9

みどりの手帖

特集
ランドスケープのしごと
「小笠原諸島とランドスケープ」
豊田 武司さん　小笠原野生生物研究会副理事長

CLAの技術・事例特集
小笠原諸島への荷物の架け橋

CLA関東支部ニュース
「新国立競技場及び明治神宮外苑の新整備計画に対する景観・ランドスケープからの提案」

ランドスケープのしごと：

小笠原諸島とランドスケープ

特　集

小笠原諸島は平成 23 年（2011）6 月に日本で 4 番目の世界自然遺産として、「固有種の宝庫」「現在進行形の生物進化」という普遍的価値の評価を受け登録されました。
今回は特別講演会として、45 年以上も小笠原の自然保護等に関わられた豊田武司さんから、世界自然遺産「小笠原諸島」の普遍的価値を裏付ける「小笠原諸島の自然と植物」といったランドスケープを構成する重要な要素について、その魅力や成り立ち等、興味深いお話を伺いました。今回の特集はその講演の概要をまとめたものです。

小笠原諸島の自然と植物

豊田 武司　小笠原野生生物研究会副理事長

豊田 武司さん
1968 年東京営林局入局。同年 7 月小笠原総合事務所国有林課勤務（父島に赴任）。連日の調査のおかげで 2 年間の在島期間で大半の小笠原の植物に精通。「小笠原諸島固有植物ガイド　2014 年 12 月」の著者。現在は小笠原野生生物研究会副理事長／樹木医（登録 No365）

● はじめに

小笠原諸島は一度も大陸と陸続きになったことがない海洋島です。約 5000 万年前に赤道に近い海底で誕生し、フイリピンプレートに載って北上し、1000 ～ 500 万年前に海上に隆起して現在に到達した特異な形態の島です。そしてその無人島だった島に欧米系の人たちが住みつき、開拓が始まったという歴史が島の自然環境と固有種の植物分化にも、大きな影響を与えていると考えます。

● 小笠原諸島の歴史

（1）小笠原諸島の発見

1593 年、信州松本深志の城主小笠原貞頼が発見したといわれていますが、疑問視する説もあります。小笠原貞頼は伝説上の人物という説もありましたが、中嶋次太郎の小笠原氏の虚像と実像の書の中で戦いに敗れ、尾張の国に逃れ、播豆の地に始祖が実在しているとのことです。

（2）小笠原への日本人の移民

父島に調査団 6 人を残した翌年に、38 人の日本人が移住し開拓を始めましたが 1863 年、政情の急変により移民を引き上げさせました。

（3）小笠原諸島の領有権の確定

1875 年、明治政府は、領有を統治するため、欧米系島民に対して日本の所管に従うよう申し立て、了承を得ました。翌年の 1876 年に諸外国に小笠原は日本領であることを通告し、日本の領土であることが確定しました。

（4）小笠原諸島の返還

1968 年 6 月 26 日、米国から施政権の返還を受け、村の行政は小笠原支庁が代行しました。

（5）国立公園と天然記念物の指定

1972 年 10 月 16 日付けで国立公園に指定され、小笠原諸島全体の 83% で 6.099ha あります。また、小笠原諸島には、多くの天然記念物の動物類が指定されています。哺乳類は 1 種で、鳥類は 4 種、昆虫類は 10 種、甲殻類は 1 種、固有の陸産貝類は全て、海産貝類は 1 種が指定されています。

（6）世界自然遺産への登録

2011 年 6 月 24 日、日本で 4 番目の世界自然遺産に登録されました。陸続きでない海洋島で独自の進化を遂げた動植物が多いこと、大陸形成の謎を解き明かす地形と地質が評価されました。

● 小笠原諸島の自然

（1）島の誕生

小笠原諸島の誕生は、約 5000 万年前に南太平洋の赤道付近で海底火山として生まれ、1000~500 万年後に海上に隆起して、フィリピンプレートに載って北上し、現在地に到達したといわれています。

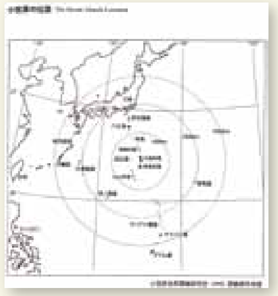
（2）島の位置、面積、気候（父島列島、母島列島）

①位置 : 北緯 26 度 33 分～ 27 度 10 分（緯度的には沖縄本島の北部に当たります。）

②面積 :66.43 ㎢（父島・母島は 44.79 ㎢）

③年平均気温 :23.3 度（父島）那覇は 22.3 度

④降水量 : 約 1200 ㎜（父島）那覇は約 2300 ㎜



出典：「小笠原諸島　固有植物ガイド
豊田武司」ウッズプレス

● 小笠原諸島の植物相

（1）植生区分（森林区分）

父島列島の大きな 3 島と母島列島本島の植生は、海岸林、山腹林、台地林・山地林等に大別できます。

（2）固有植物の類縁

植物相を構成している固有種の類縁を探ってみると、地理的な環境と潮流の影響を受け、遠く離れた地域の植物相と関係が深く、小笠原諸島の誕生説に起因していると言えそうです。

● 小笠原諸島の固有種（植物）

名称	種類
植物	マルハチ、シマクジャク、シマザクラ、オガサワラボチョウジ、タコノキ、ムニンノボタン、ヒメツバキ、ムニンツツジ、ワダンノキほか 125 種

● 外来種

明治 22 年に母島でサトウキビ栽培の成功により、砂糖製造が始まり、各島へ栽培地が増加する一方で樹木が伐採され、薪炭林の供給不足となりました。そのため、成長の早い外来樹種が各島に植栽され、在来樹に大きな影響を与えたのです。在来種に大きな影響を与えている樹種としてはリュウキュウマツ、トクサバモクマオウ、アカギ、シマグワ、ギンネムなどが挙げられます。

● 小笠原固有種の保護

（1）外来種の除去

外来種で特に在来の樹種を衰退化させるのがアカギとトクサバモクマオウの 2 種です。この外来種の除去を早急に進めることが、小笠原の固有種の保護に繋がります。

（2）絶滅危惧種の保護

①木本類

小笠原固有種で個体数が少ない種をあげてみますと、ムニンツツジ、ムニンノボタン、コバトベラ、ウチダシクロキ、ヘラナレン、ユズリハワダン、ワダンノキ、セキモンノキ、オオヤマイチジクの 9 種があります。

②草本類

草本類の個体数の少ない種をあげますと、シマホザキラン、ホシツルラン、コヘラナレン、ムニンヒョウタンスゲ、オガサワラシコウラン、アサヒエビネ、シマギョウギシバ、セキモンウライソウ、シマカコソウの 9 種があります。

絶滅危惧種の保護に当たっては、生育している環境と生育状況を調査し、その良好な環境を変化させないことが、絶滅が心配される固有種の保護に繋がります。

● 小笠原諸島の景観

小笠原諸島の代表的な景観をあげてみますと、東京の竹芝桟橋を出航して翌朝、まず明るくなった洋上に見えてくるのが北ノ島の小島群と、聟島（むこじま）と針の岩です。船が進むにつれて、弟島、兄島、父島と近づいてくる島の変化を楽しんでいますと、船は烏帽子岩を回り、父島の二見港に入港します。25 時間 30 分の長旅、汽笛が響いて船は父島二見港桟橋に接岸です。

（1）父島列島の景観

①父島島内の見どころ

父島でまず行きたい所はと問われますと、兄島瀬戸の景観、中山峠から南島と小港の眺望、三日月山からの展望、中央山展望台からの眺めなどが、印象に残る景観です。

②属島を巡る海上遊覧

少しお金はかかりますが、船をチャーターして、父島の二見湾から南島を見ながら、円縁湾（まるべり）から天之浦、巽崎（たつみざき）を回り、巽島、東島を通り、兄島東側の岩峰を見ながら、弟島北端の孫島を回り、弟島の西側に出て、西島、瓢箪島、人丸島を間近に見ながらの三島巡りも、変化する島の奇岩が観賞できて、心に残るものとなります。

（2）母島列島の景観

船木山から乳房山へのコース、南崎海岸と小富士へのコースは単独でも OK ですが、母島で誰もが一度は行きたい堺ヶ岳・石門のコースは、ガイドを雇わないと入れません。海が静かな時期には、船を雇って、母島の南方に点在する小島群を訪ねるのもよいでしょう。変わりゆく小島群の島影が素晴らしく、中でも姉島南部の 2 本の岩塔は、他に類を見ない景観です。この小島巡りは、日本では他に見られない絶景の海上遊覧かもしれません。

● 小笠原の旅

小笠原への旅は、最短でも 6 日間の日程が必要となりますので、まず目的を決めることが大事です。どんな植物を見るのか、どの動物を見たいかを決めることから、旅の計画を立てるとよいでしょう。

[小笠原の主な観光資源]

観光資源（動物）	観察適期
ホエールウォッチング（ザトウクジラのブリーチング）	3 月 ~4 月
イルカの観察や遊泳	6 月末 ~8 月初旬
オガサワラオオコウモリと夜行茸（グリーンペペ）	5 月 ~6 月

観光資源（植物）	観察適期（花卉）
デイゴ、カエンボク、テンノウメ、ムニンシャシャンボ、ムニンネズミモチ、ナガバキブシなど	3 月中旬
シロテツ、オオバシロテツ、ヤロード、シロトベラ、チチジマイチゴ、ムニンツツジ、ムニンアオガンピなど	4 月～ 5 月
ヒメツバキ、シマザクラ、マルバシマザクラ、シマムラサキ、トキワガマズミ、オガサワラクチナシなど	5 月～ 6 月
オオハマギキョウ、アコウザンショウ、シマホルトノキ、ハハジマノボタン、ノヤシなど	7 月
ムニンフトモモ、ムニンノボタン、ムニンセンニンソウ、オガサワラモクレイシ、アサヒエビネなど	8 月～ 9 月
ウチダシクロキ、チチジマクロキ、シマイスノキ、ヘラナレン、ワダンノキなど	11 月～ 12 月
ユズリハワダンなど	12 月～ 1 月

● 小笠原で出会える固有植物たち

（＊は広分布種）

アサヒエビネ　イモネヤガラ＊　ウラジロコムラサキ　グリーンペペ＊　シマザクラ　テリハハマボウ　バイケイラン＊
ハハジマホザキラン　ヒメツバキ　ムニンシュスラン　ムニンノボタン　ムニンフトモモ　ハハジマノボタン（命名者 : 豊田武司）